

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-89	高等学校	地理歴史	地理探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	地探081-901	地理探究 改訂版		

1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、教育基本法および学校教育法の趣旨を踏まえ、高等学校学習指導要領の「地理探究」の目標・内容・内容の取り扱いに則り、以下の趣旨に基づいて編修しました。

① 世界と日本の今を、的確に判断する能力を身につける

グローバル化や情報化が進む現在、世界の変化は著しく、複雑かつ多様化しています。世界や日本で今、何がおきており、そこにはどのような背景があり、どのような影響が広がっていくのか、地理総合で学んだことを土台にして、世界や日本のそれぞれの地域の特性を正しく理解し、的確に判断する能力の育成をめざします。

② 次世代のよりよい社会の形成に、主体的に参画する態度を培う

経済格差の拡大や地球環境問題、難民の増加など、世界は今、一国では解決できないさまざまな課題に直面しています。日本も、少子高齢化・人口減少の進行や、食料や資源の自給率の低さなどに対処しつつ、産業の国際競争力を維持しながら、社会を持続的に発展させていくことが求められています。世界や日本の具体的な事例について、自分も地球市民の一員であるという自覚と、主権者としての視点を持ち、自ら構想し、解決に向けて主体的にかかわる態度の育成をめざします。

【編修の留意点】

編修の趣旨を実現するため、各単元において以下の点に留意して教材の構成を行いました。

① 系統地理的考察と地誌的考察を連携させた深い理解

系統地理と地誌の幅広い理解に向け、各系統分野と地誌で取り上げる10地域の連携をはかり、全分野をもれなく取り上げるよう構成しました。地理総合の学習成果をもとに考察を深めます。

② 単元の学習内容と流れをわかりやすく提示

各単元に「学習のテーマ」と「まとめと考察」を設定し、その学習の意味づけを明確にしました。各所に「着目」として問いや調べるテーマを示し、さまざまな視点から理解が深まるよう促します。

③ テーマを探究する特設ページ「地球を探る」「資料を読み解く」「ケーススタディ」「海洋」

各分野に具体的なテーマを設定して学習を深める特設ページを設定しました。本文に関連の深い最新研究や、資料・事例を通じた考察により、現代世界の動向や課題への多角的な理解を促します。

④ 世界の今をあらゆる資料を充実、地理的技能の向上

産業や国際情勢など、新しい統計資料や図版を多数取り入れました。地理資料の判読や技能コラムを通して、地理的な思考力・判断力を高めます。GISで作成した地図も多用しています。

⑤ 将来の日本の国土像について、四つの分野からテーマを設定して探究

地理探究の総まとめとして系統・地誌で習得した概念や手法をもとに、日本の国土像について「自然災害」「産業の成長」「人口減少」「エネルギーの安定供給」の4テーマから探究活動を行います。

2. 編修の基本方針（教育基本法第2条）

第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

- 世界と日本における現状や課題を平易に記述し、テーマごとに設けたコラムや特設ページによって内容を深く掘り下げ、幅広い知識と教養を身に付けることができるようにしました。
- グローバル化が進み地球的課題が山積するなか格差や対立も増大している現代社会において、持続可能な国際社会の担い手として、互いに尊重しあい公正に判断する視野や道徳心を養えるようにつとめました。
- 国土像の探究を行うにあたっては、テーマの設定から仮説の設定、課題の探究、さらに発表を行うまでの道筋を示し、生徒が自ら課題を発見し、解決に向けた方策を導き出すことを促し、真理を求める態度を養えるようにしました。

第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

- 現在、私たちが直面しているさまざまな地球的課題や身近な地域の課題について、多様な意見や異なる価値観を尊重したうえで解決をはかることの必要性を考えさせるようにつとめました。
- 国による経済発展の違いや南北の格差、途上国における厳しい労働環境の現状を理解させることで、どのようにしたら世界の人々が等しく幸福を享受できるかについて、考えさせています。

第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

- 世界にはさまざまな民族が暮らし、多様な価値観をもった文化・宗教が存在するなか、経済格差やジェンダー格差などの不平等もみられます。公平・公正な社会を築くためにどのような考え方や取り組みが必要かを学ぶことから、将来の社会参画に必要な公民としての資質を身に付けられるようにつとめました。

第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

- 世界各地にみられる生活文化は、各地域の自然的環境の影響を受けながら育まれたものですが、近年、人間の営みによってその自然的環境が良好に維持されない状況が続いています。そのような現状を理解し、未来に向けた持続的な環境保全の必要性について考えさせています。
- 私たちの住む地球には、人間だけではなく、動物や植物を含む生物が多様性に富んだ生態系を形成しています。人間の経済活動や無秩序な行いがそのような生態系に与える影響について理解させ、生命を尊重することの意識と態度を養えるようにつとめました。

第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

- 多様で豊かな自然環境に恵まれている日本には、さまざまな伝統や文化があり、それらは衣食住など暮らしのなかに脈々と受け継がれていることを理解させています。
- 世界には多様な伝統・文化・慣習があることを理解し、日本でも、多様な文化をもつ人々が共生する平和的な社会を築くことができるよう、必要な知識・態度を養えるようにつとめました。
- 生徒が、これから国際社会に主体的に生きる一人の人間として成長できるよう、国際社会における諸課題について多面的・多角的に理解し、持続可能な社会の形成に向けた方策を自ら考えていくことができるようにつとめました。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
教科書全体について		
持続可能な開発目標 (SDGs) との関わり	教科書の全編を通して、持続可能な開発目標 (SDGs) の課題に関連した資料を取り上げ、各々の課題は独立しておらず、複雑に関連しあっていることを理解させ、将来、生徒が SDGs の担い手となるよう資質・能力を高めることを目的としている (第一号) (第二号) (第三号) (第四号) (第五号)。	全体
はじめに	地理学習により基本的な知識を身に付け、自分なりの見方・考え方を確立することが社会参画への大切な素養となることをうたい、社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することの大切さを、教科書のまえがきに記載した (第一号) (第二号) (第三号)。	iii
各編の中扉	系統地理的考察、地誌的考察の各編の冒頭で、本編で学ぶべき考察内容を本文内容と関係する迫力のある写真とともに取り上げ、学習への意欲を喚起するようにした (第一号)。	p.7,207
「学習のテーマ」と「まとめと考察」の設定	本文各単元の冒頭に、本項で学ぶ内容についての着目点を示した導入文を設け、自ら考える動機づけを行っている。また見開きの最後に、本項で学んだことの知識の定着をはかることを目的とした「まとめ」、さらに自ら考え、調べるなどの探究活動を促す「考察」を設置した (第一号)。	全体
「地理の技能」の設定	地理総合で修得した地図・GIS に関する技能を基盤に、さらに、課題に関する資料をまとめるために必要な地理の技能を、学習の習熟度に応じて基本から発展へと、段階を追って身につけられるようにした。「地理の技能」コラムや、資料性の高い図、作業や問いかけなどを豊富に取り上げた (第一号)。	全体
問いかけの設定	本文や図表・写真に関連した問いかけの欄 (「着目」) を適宜設けて、学習したことをさらに調べたり、自分の考えをまとめたりする機会を設定し、自らの調べ学習によって学習を深め、幅広い知識や教養を得られるようにした (第一号)。	全体
「地理を深める」「地域でとらえる」コラムの設定	新たなテーマを取り上げて本文の内容を発展させたり、具体的な事例を取り上げて理解を深めるコラムを設定し、生徒の自主的な学びや興味を喚起するよう工夫した (第二号)。	全体
二次元コードによる ICT 教育支援	本文に適宜配置した二次元コードを読み込むことで、動画や地理院地図などのデジタル地図、学習に役立つ外部サイトにジャンプし、紙面からだけでは得られない情報を読み取れるよう配慮した (第一号)。	全体

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 I 編 現代世界の系統地理的考察		
系統地理的学習全体	世界的視野から人々を取り巻く環境の多様性や国際情勢をとらえ、現代世界のかかえる地球的課題の解決を担う力を養成する。特に、地球環境問題、食料問題、資源・エネルギー問題、人口問題、都市・居住問題など、先進国・発展途上国それぞれの立場の違いを考え、解決に向けて国際協力する重要性を理解させる（第三号）。	第 I 編 全体
第 I 編第 1 章 自然環境	世界のさまざまな自然環境について、地形・気候・生態系・土壌の各事象を成因から現象まで体系的に整理し、各気候区においてはそこで人々はどのような暮らしを営んでいるのかを考察させる（第一号）。	p.8 ~ 77
第 I 編第 1 章 5 節 地球環境問題	森林減少、砂漠化、大気・海洋汚染、地球温暖化などの現状や背景、国による立場の違いなどを理解させ、解決に向けての国際的な動きについても捉えさせる（第三号・第四号）。	p.66 ~ 77
第 I 編第 2 章 資源と産業	グローバル化が進み、国境をこえた農業・鉱工業などの活動が盛んになり、国家間・企業間の競争が激しさを増す一方で、国際分業や企業連携なども進んでいる。各分野の具体例を通して、世界の経済的な動きの現状と課題を理解させる（第二号）。	p.78 ~ 135
第 I 編第 3 章 人・モノ・金のつながり	交通や通信の発達により人やモノの移動が活発になり、貿易の自由化も進んで、国境を越えた経済活動が活発化している現状を認識させるとともに、交通・通信、観光・貿易に関わる課題を理解させる（第一号）（第五号）。	p.136 ~ 155
第 I 編第 4 章 人口、村落・都市	世界人口の推移を概観し、その上で増加傾向にある地域と減少傾向にある地域それぞれの現状と課題を認識させる。また、集落における立地の特徴や規則性を概観し、都市が形成される過程と都市化による課題、さらにその解決・改善方法を探らせる（第三号）。	p.156 ~ 181
第 I 編第 5 章 文化と国家	写真や世界スケールの主題図を中心に、地球上にはさまざまな言語・宗教・文化をもった人々が暮らしていることを捉えさせ、民族固有の文化を尊重することのたいせつさを理解させる。その一方で、異なる民族・宗教間で起きる対立や、少数民族の権利保護、さらに難民の発生など、現在進行している課題の背景や要因についても理解させ、国際社会の安定について考えさせる（第五号）。	p.182 ~ 206
第 I 編第 5 章② 4 日本の領域と領土に関する問題	海洋国家としての日本の位置を認識させるとともに、日本固有の領土である北方領土・竹島・尖閣諸島について、地理的な観点から現状を理解させる。（第五号）。	p.202 ~ 203
特設ページ「地球を探る」	系統学習（自然分野）において、主に地球科学における最新の研究動向を高校生にも理解しやすく解説した「地球を探る」という特設ページを設けた。本文を読んだうえで末尾の「Try !」に臨むことにより深い学びの実現を促している（第一号）。	p.23, 42-43, 76-77
特設ページ「資料を読み解く」	系統学習（人文分野）において、本文の学習内容をさらに発展させるような統計資料や地図を取り上げ考察する「資料を読み解く」という特設ページを設けた。関係性、因果関係、背景などを考察させることで理解を深めることを狙いとしている（第一号）。	p.90-91, 112-113, 135, 142-143, 152-153, 164-165
特設ページ「ケーススタディ」	系統学習（人文分野）において、本文で学習した内容について具体的な事例を紹介した「ケーススタディ」という特設ページを設けた。個別の事例を学ぶことにより、系統学習の理解を深めることを狙いとしている（第一号）。	p.59,65, 177,179, 194-195, 206

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察		
地誌学習全体	世界の10地域を取り上げ、バランスよく学習する。各地域の自然、産業、文化などから、地域的特色を具体的にとらえ、それぞれの背景にある歴史的な流れや課題、日本との関係を理解し、国際理解を深める(第一号)。	p.214～ 311
比較地誌学習 第Ⅱ編第2章④ 西アジア・中央アジア 第Ⅱ編第2章⑤ 北アフリカ・サブサハラアフリカ	「文明の十字路」とよばれ、アジアとヨーロッパの結節点にある西アジアと中央アジア、広大な大陸を南北に区分した北アフリカとサブサハラアフリカでは歴史、文化、国際関係などにおいて、それぞれ類似性・対照性をもつ項目をそれぞれ比較しながら、二つの地域の特徴について理解を深める(第一号)。	p.246～ 253 p.254～ 261
特設ページ 「海洋からみた世界のつながり」	海洋に着目して、地域のつながりを歴史・文化・社会・自然などから読み解く。日本海と3大洋(インド洋・大西洋・太平洋)、北極圏について、その沿岸地域がいかにして関わりをもち、どのように影響を与え合っているかを理解させる(第一号)。	p.228-229, 262-263, 280-281, 300-301, 310-311
第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像		
第Ⅲ編第1章 持続可能な国土像の探究	2050年の日本の姿を展望し、将来直面する日本の課題とその解決の方向性、さらには豊かな国土像を構築するための手法について探究し、表現することを目的とする。「持続可能な開発目標(SDGs)」の取り組みなどを参考にしながら、これまでに学習してきた内容をふまえ、探究学習に取りかかれるように日本の課題を三つの事例から分析する事例を示した(第二号)。	p.312～ 323
第Ⅲ編第1章②2 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給をめざして	エネルギーの安定供給について、[課題の設定]→[仮説の設定]→[情報収集と調査]→[分析と考察]→[まとめと発表]といった手順を示し、前項の3事例のほか、生徒自らが設定した課題の解決に向けた探究学習の具体的な活動例を提示している(第二号)。	p.320～ 323

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 大判紙面に、本文・テーマと関連する主題図・写真・設問・用語解説・コラムなどを掲載し、資料性の高い紙面になっています。生徒自らが学習しやすいよう、有機的に視覚的に配置しています。
- 全般にわたり、多様で幅広い題材を扱うとともに、社会的動向の著しい分野については最新の状況をあらわすような統計や資料を充実させ、知識の修得を確実に行えるようにしています。
- 各単元の最後に、「ワード」として各項で取り上げた重要用語をまとめて配置して、知識の定着をはかるようつとめています。
- 文章の表現を正確にわかりやすくするとともに、重要用語である太字を適切に配置し、振り仮名を豊富につけるなど読みやすいようにしています。
- 系統地理・地誌が相互に補完できるよう、関連ある内容や地理用語には該当箇所を示す参照ページをつけました。用語解説や地域事例など、円滑に参照しあえるようになっています。
- 地理学習の基本となる図法や地図およびGISについて、巻末にそれぞれの理解を深める付録を設けています。
- カラーユニバーサルデザインを考慮し、色覚特性を持った生徒にも読み取りやすいものとなるよう心がけています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-89	高等学校	地理歴史	地理探究	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
81 山川	地探081-901	地理探究 改訂版		

1. 編修上, 特に意を用いた点や特色

本書は, 高等学校学習指導要領の「地理探究」の目標・内容・内容の取り扱いに則り,

- 1) 世界と日本の今を, 的確に判断する能力を身につける
- 2) 次世代のよりよい社会の形成に, 主体的に参画する態度を培う

上記2点の趣旨を実現するよう, 以下, ①~④の特色を中心に編修を行いました。

特色① 主題や学習内容を明確化, 高校生が自ら学びやすい誌面構成

紙面サンプル p.150-151 観光・貿易

学習のテーマ

見開きの学習内容の着目点を提示

言葉の整理

類似・対比する用語を整理

ポイント補説

具体的な事例から本文を補足

豆知識

見開きに関連する地理のトリビア

ワード

見開きを理解するうえで重要な用語

情報源

さらに自ら調べて探究する際に役立つ資料を紹介

着目

図表の読み取りや, 作業を通して理解を促す

まとめと考察

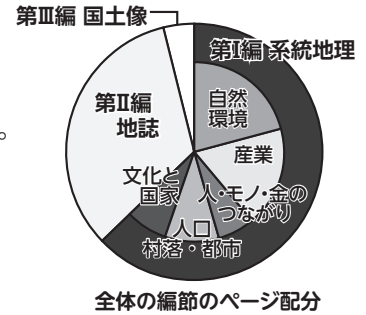
学習の振り返りとともに, 発展的な学習を提示

- ・「学習のテーマ」「まとめと考察」「ワード」により, 学習内容や意味づけを明確にしました。
- ・地理総合教科書の基本的な構成を引き継ぎ, 学習の継続性に配慮しました。
- ・本文をサポートする図版・写真・設問・欄外解説・コラムなどを豊富に掲載しました。

言葉の整理 (27 欄), **ポイント補説** (33 欄), **豆知識** (129 欄)

特色② 系統地理的考察から地誌的考察へ、そして日本の国土像の探究学習へつなげます

系統地理と地誌の連携をはかりながら、地理的な知識が確実に身につくように内容を網羅しました。また、身につけた知識を活用して諸課題を探究して解決策を構想できるよう、構成を工夫しました。



第I編 現代世界の系統地理的考察

各分野の国際的な情勢や最新事情を反映しました。

例1：「気候と生態系」について植生・土壌を再構成 (p.30～)

植生、土壌について見開きで取り上げ、世界の分布図を更新するとともに、各要素について整理しました。あとに続く気候区の分布や、自然環境の内容とも密接に連携させています。

例2：各種工業の事例を通して理解を深める (p.114～)

工業の発展や立地といった基本的な事象の学習後、繊維工業、電子機器工業、自動車工業、知識集約型産業などの代表的な工業を取り上げて、グローバル化の進展による変容やその課題について掘り下げています。

例3：サービス経済化と情報通信市場の拡大 (p.130～)

先進国では第3次産業人口の割合が多数を占めていることを社会の変化としてとらえるとともに、商業と情報通信業を取り上げ、商業立地や付加価値を追究する動きについて事例をあげながら理解を深めます。

例4：貿易自由化の進展による連携と対立 (p.148～)

物資だけでなくサービスを扱う貿易も増えていること、貿易協定で繋がり合う経済圏が成長する一方、貿易摩擦による対立やグローバルサウスの成長といった勢力争いが際立つことなど、最新の世界情勢を取り上げます。

例5：人口の自然増減・社会増減の動きを焦点化 (p.156～)

2080年には世界人口の減少が始まることを受け、特に人口の社会増減について、歴史的な移民や出稼ぎ労働者、定住権の獲得などを取り上げながら、現在の同化・共生の動きやその課題に焦点をあてて考察します。

例6：民族問題、陸地・海洋における問題をそれぞれ考察 (p.192～, p.198～)

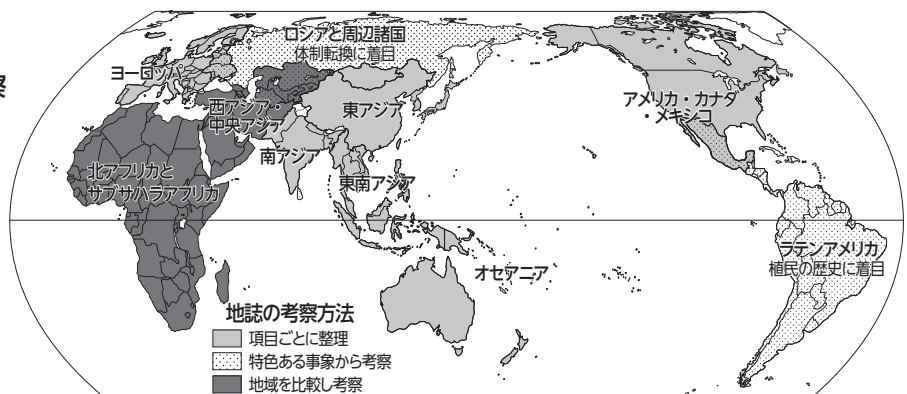
民族間の武力紛争や難民の発生といった民族問題と、陸地や海洋をめぐる領土問題を分け、それぞれ事例を通して丁寧に扱うことにより、国際協力の必要性や紛争解決の難しさなどへの深い理解を促しています。

第II編 現代世界の地誌的考察

世界の諸地域を偏りなく学習できるよう、10地域・国をバランスよく取り上げました。

- ① 項目ごとに整理
- ② 特色ある事象から考察
- ③ 地域を比較し考察

の3手法から考察します。



第III編 現代世界におけるこれからの日本の国土像

これまでの学習をふまえ、日本の課題について現状の把握から考察を進め、国土像を探究します。

探究活動の例 資源少国・災害大国である日本 / 電力の安定供給をはかるには？



特色③ 学習を深めるよう、各分野に4種類の特設ページを設定しました



最新の研究を通して、自然分野の現象や法則性を掘り下げる

p.42-43

ウェゲナーの大陸移動について、大陸や海溝の形、生物やコーヒー栽培地の分布図に着目して読み解きます。

【第1編1章 自然環境 から全3テーマ】

- 氷河地形 → さまざまな時間スケールの気候変動
- 植生・土壌 → 大陸移動から捉える生態系と土壌
- 地球温暖化 → 温暖化緩和に向けた国際協力を考える

地球を深く探る 大陸移動から捉える生態系と土壌

テーマ設定 世界では多様な生態系がみられるが、その地理的分布を調べると、ある境界線で大きく種類が違っていたり、遠く離れた大陸と共通する動植物がいたりする。理由を考えてみよう。

1 5000万年前の大陸移動
2 南米大陸とアフリカ大陸の分離
3 南米大陸とアフリカ大陸の分離
4 南米大陸とアフリカ大陸の分離

5 南米大陸とアフリカ大陸の分離
6 南米大陸とアフリカ大陸の分離

7 南米大陸とアフリカ大陸の分離
8 南米大陸とアフリカ大陸の分離

9 南米大陸とアフリカ大陸の分離
10 南米大陸とアフリカ大陸の分離

11 コーヒー・カカオの産地と土壌の関係

12 ブラジルのコーヒー栽培(サンパウロ州、2019年6月撮影)

13 コートジボワールでのカカオ豆の収穫(2021年4月撮影)



統計や地図を読み解くことで、新たな視点から世界の動向を捉える

統計から読み解く貿易

統計から読み解く貿易

1 世界の貿易と、おもな国の動向

2 世界の貿易と、おもな国の動向

3 世界の貿易と、おもな国の動向

4 世界の貿易と、おもな国の動向

5 世界の貿易と、おもな国の動向

6 世界の貿易と、おもな国の動向

7 世界の貿易と、おもな国の動向

8 世界の貿易と、おもな国の動向

9 世界の貿易と、おもな国の動向

10 世界の貿易と、おもな国の動向

統計から読み解く貿易関係の変化

1 世界の貿易と、おもな国の動向

2 世界の貿易と、おもな国の動向

3 世界の貿易と、おもな国の動向

4 世界の貿易と、おもな国の動向

5 世界の貿易と、おもな国の動向

6 世界の貿易と、おもな国の動向

7 世界の貿易と、おもな国の動向

8 世界の貿易と、おもな国の動向

9 世界の貿易と、おもな国の動向

10 世界の貿易と、おもな国の動向

p.152-153

輸出依存度の高い国にはどんな特徴があるのか、中国とアメリカ、ヨーロッパの貿易不均衡はどのように推移しているか、統計資料から読み解きます。

【第1編2章～ 全6テーマ】

- 農業の商業立地 → 都市とその周辺で営まれる農業
- エネルギー問題 → エネルギーの課題と政策
- サービス経済化 → 大都市に情報通信業が集積する要因
- 第3次産業 → 成長する通信販売市場と物流
- 貿易統計 → 統計から読み解く貿易
- 人口問題 → ジェンダー平等の地域差と課題



事例を取り上げ、具体的な特徴や状況、課題の考察を通して理解を深める

p.194-195

パレスチナ紛争とウクライナ紛争、どちらも複雑な背景をもつなか、対立が表面化した戦いが広がっています。周辺地域や民族のもつ背景、歴史的な動きを丁寧にひとときながら考察を深めます。

ケーススタディ パレスチナとウクライナでの紛争

シオニズム運動とアラブ・ナショナリズム

一つ一つの土地をめぐる争いはなぜ生じたのだろうか。世界のユダヤ人は、なぜパレスチナを自らの土地に、自分たちの国家を建設しようとしたのだろうか。この争いに宗教がどのようにかかわり、なぜ大きな戦禍へと発展しているのだろうか。

1917年 エドモンド・ホットエル報告書(シオニズム運動)

1947年 国連総会パレスチナ分割決議案

1948年 イスラエル建国

1949年 1948年パレスチナ戦争

1967年 1967年パレスチナ戦争

1973年 1973年第四次中東戦争

1991年 1991年湾岸戦争

2002年 2002年パレスチナ自治政府設立

2011年 2011年アラブ春

2014年 2014年イスラエルとパレスチナの衝突

2022年 2022年ロシアとウクライナの紛争

ヨーロッパとロシアのはざまに揺れるウクライナ

ロシアのウクライナ侵襲は長期化し、犠牲者が増えている。ウクライナは西部・北部、ロシア軍の侵襲に苦しむ東部・南部で歴史・文化的背景が異なる。独立した自治地は、ウクライナがヨーロッパ諸国とロシアとのような関係であることを望んでいる。それぞれの立場から考えてみよう。

1 東部と南部のロシア軍の侵襲

2 東部と南部のロシア軍の侵襲

3 東部と南部のロシア軍の侵襲

4 東部と南部のロシア軍の侵襲

5 東部と南部のロシア軍の侵襲

6 東部と南部のロシア軍の侵襲

7 東部と南部のロシア軍の侵襲

8 東部と南部のロシア軍の侵襲

9 東部と南部のロシア軍の侵襲

10 東部と南部のロシア軍の侵襲

【第1編 全6テーマ】

- 自然と生活 → 高山気候を活かした生活
- 日本の自然災害 → 甚大な災害と支援
- 都市過密化の課題 → 過密化による都市環境の悪化
- 都市開発の課題 → 都市衰退からの復活
- 紛争の背景 → パレスチナとウクライナでの紛争
- 領土問題 → 南極圏と南極条約

2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察	第1章 自然環境 ① 地形 ② 気候と生態系 ③ 世界各地の自然と生活 ④ 日本の自然環境と防災 ⑤ 地球環境問題	A(1) 自然環境	p.8～p.77	22
	第2章 資源と産業 ① 農林水産業 ② 資源・エネルギー ③ 工業 ④ 第3次産業	A(2) 資源, 産業	p.78～p.135	19
	第3章 人・モノ・金のつながり ① 交通・通信 ② 観光・貿易	A(3) 交通・通信, 観光	p.136～p.155	7
	第4章 人口, 村落・都市 ① 人口 ② 村落・都市	A(4) 人口, 都市・村落	p.156～p.181	10
	第5章 文化と国家 ① 生活文化と言語・宗教 ② 国家とその領域	A(5) 生活文化, 民族・宗教	p.182～p.206	8
第Ⅱ編 現代世界の地誌的考察	第1章 地域区分	B(1) 現代世界の地域区分	p.208～p.213	2
	第2章 現代世界の諸地域 ① 東アジア ② 東南アジア ③ 南アジア ④ 西アジア・中央アジア ⑤ 北アフリカ・サブサハラアフリカ ⑥ ヨーロッパ ⑦ ロシアと周辺諸国 ⑧ アメリカ・カナダ・メキシコ ⑨ ラテンアメリカ ⑩ オセアニア	B(2) 現代世界の諸地域	p.214～p.311	33
第Ⅲ編 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究		C(1) 持続可能な国土像の探究	p.312～p.323	4
			計	105